

(4) 中富健康科学振興賞 (交付金額: 200万円)

平成24年度 中富健康科学振興賞 受賞者履歴	
氏名	多田羅 浩三(たたら こうぞう)
推薦学会	一般財団法人日本公衆衛生協会
現職及び略歴	<p>(現職及び略歴)</p> <p>昭和41年3月 大阪大学医学部卒業</p> <p>昭和51年1月 大阪大学 助手 医学部(公衆衛生学)</p> <p>昭和54年3月 イギリス・ケント大学保健サービス研究所 客員研究員</p> <p>昭和56年12月 大阪大学 助教授</p> <p>昭和62年10月 大阪大学 教授</p> <p>平成11年4月 大阪大学教授 大学院医学系研究科(社会環境医学講座)</p> <p>平成16年4月 放送大学教授/大阪大学名誉教授</p> <p>平成22年4月 財団法人日本公衆衛生協会 理事長</p> <p>平成23年6月 財団法人日本公衆衛生協会 会長</p> <p>平成24年4月～ 一般財団法人日本公衆衛生協会 会長</p> <p>(主な学会活動)</p> <p>昭和59年～平成24年 日本公衆衛生学会 評議員</p> <p>平成2年～11年 日本公衆衛生学会 理事</p> <p>平成8年10月 第55回日本公衆衛生学会 会長</p> <p>平成11年～17年 日本公衆衛生学会 理事長</p> <p>平成24年10月～ 日本公衆衛生学会 名誉会員</p> <p>平成12年2月～ イギリス公衆衛生学会特別会員</p> <p>平成12年5月～ ロンドン王立内科医学会特別会員</p> <p>(主な社会活動)</p> <p>平成元年～ 大阪大学適塾記念会監事</p> <p>昭和56年～61年 厚生労働省 国民健康づくり計画モデル事業推進検討委員会委員</p> <p>昭和62年～平成2年 厚生労働省 公衆衛生審議会専門委員</p> <p>平成13年～ 厚生労働省 健康日本21推進国民会議委員</p> <p>平成13年～ 厚生労働省 厚生科学審議会健康増進栄養部会委員</p> <p>平成17年～ 厚生労働省 ハンセン病問題再発防止検討会座長</p> <p>平成23年～ 厚生労働省 保険者による健診・保健指導等に関する検討会座長</p> <p>平成24年～ 厚生労働省 集団予防接種等によるB型肝炎感染拡大検診・再発防止検討会研究代表</p> <p>平成14年～18年 日本医師会 公衆衛生委員会委員長</p> <p>(受賞等)</p> <p>平成9年10月 Oxford University Litchfield Lecturership With Title</p> <p>平成15年11月 大阪府医師会医学教育功労賞</p> <p>平成18年11月 日本医師会最高優功賞</p> <p>(業績) 著書54編、学術論文213編、報告書225編、その他の論文等126編</p> <p>(学会発表) 日本公衆衛生学会361編, 国際学会24編, その他98編</p> <p>(主な著書) Tataru K. The origins and development of public health in Japan. In. Detels R, Holland W, eds. Oxford Textbook of Public Health, Third Edition. The Scope of Public Health, 1997;1:55- 多田羅浩三. 公衆衛生の思想 - 歴史からの教訓 -, 東京: 医学書院, 1999; 1-284. 多田羅浩三, 瀧澤利行. 公衆衛生-その歴史と現状 -, 東京: 放送大学教育振興会, 2009;1-284. Tataru K, Okamoto E. Health Systems in Transition, Japan, European Observatory WHO, 2009;1-164. 多田羅浩三, 高鳥毛敏雄. 健康科学の史的展開, 東京: 放送大学教育振興会, 2010;1-288. 多田羅浩三. 現代公衆衛生の思想的基盤, 東京: 日本公衆衛生協会, 2011;1-101.</p> <p>(主な原著) Tataru K, Sasai Y, Ogawa S, Cho T, Asakura S, Bevan J, Warren MD. Cooperation between general practitioners and community nurses based at health centres in the United Kingdom as seen through the eyes of Japanese doctors, 1979. Public Health 1982;29(7):289-299. Tataru K, Shinsho F, Suzuki M, Takatorige T, Nakanishi N, Kuroda K. Relation between use of check ups starting in middle age and demand for inpatient care by elderly people in Japan. Medical Journal 1991;302(6777):615-618. Tataru K. On putting life first. Lancet 1996;8971:327-328. Tataru K. Philosophy of public health: Lessons from its history in England. Journal of Public Medicine 2002;24(1):11-15. 多田羅浩三. イギリスにおける地域包括ケア体制の地平. 海外社会保障研究 Spring 2008;162:16-28.</p>

平成24年度 中富健康科学振興賞 受賞者履歴

氏名	阿江 通良(あえ みちよし) 筑波大学副学長
推薦学会	日本体育学会
現職及び略歴	<p>(学歴) 1982年3月 筑波大学大学院博士課程体育科学研究科 修了(教育学博士取得(筑波大学)博甲第148号)</p> <p>(職歴) 1982年4月 筑波大学文部技官学生部学生課(体育センター)文部技官 1985年4月 筑波大学講師 体育科学系 1993年4月 筑波大学助教授 体育科学系 2000年4月 筑波大学教授 体育科学系 2002年4月 筑波大学体育専門学群副学群長 2006年4月 筑波大学体育科学系長 2008年4月 筑波大学体育専門学群長 2012年4月 筑波大学副学長(教育担当)</p> <p>現在に至る (所属学会) 日本体育学会、同 茨城支部支部長、日本バイオメカニクス学会会長、日本体力医学会 国際バイオメカニクス学会、国際スポーツバイオメカニクス学会編集委員、バイオメカニクス学会評議員 日本スポーツ運動学会会員、日本コーチング学会会員理事</p> <p>(主な受賞) 関東学生陸上競技選手権 走高跳 2m o 3位、1972年 バイオメカニクス学会論文賞、日本バイオメカニクス学会、1994年 第1回秩父宮記念スポーツ医・科学賞 奨励賞、1998年 日本陸上競技連盟科学委員会バイオメカニクス班 日本体育学会奨励賞、日本体育学会、1998年 ランニング学会優秀発表賞(横湊、藤井、阿江)、2004年</p> <p>(社会的活動) 日本体育協会: スポーツ医・科学研究事業 研究班班員 (昭和63年4月~平成2年3月) 競技種目別競技力向上に関する研究中央企画班班員 (平成2年4月~現在) スポーツ医・科学専門委員会 委員(平成11年4月~現在) 日本オリンピック委員会:医科学サポート班班員(平成2年4月~現在) 強化スタッフトレーニングドクター(平成8年4月~現在) IOC Biomechanics Research Project In Nagano Winter olympic Games, Speed skating project leader (February,1998)</p> <p>日本陸上競技連盟: コーチ講習会 講師(昭和51年11月~現在) 世界陸上バイオメカニクス研究班 班長(平成3年4月~平成4年3月) 科学委員会 委員(平成2年4月~平成11年3月) 医科学委員会 副委員長(平成11年4月~平成15年3月) 科学委員会 委員長(平成15年4月~現在)</p> <p>(学術論文) 学術論文 約250編、その他の論文 約100編、学会発表 約300件</p> <p>(主な著書) *スポーツの技術指導を考える.21世紀と体育・スポーツ科学の発展-日本体育学会第50回記念大会誌2(共著), *身体運動のバイオメカニクス(共著),コロナ社,p p.126-166,2002. *スポーツバイオメカニクスの立場から.永島 惇正(編著),スポーツ指の基礎-諸スポーツ科学からの発信-(共著), 北樹出版,pp.162-190,2000. *スポーツバイオメカニクス(共著),朝倉書店,東京,pp.79-85,2000. *スポーツバイオメカニクス20講(共著),朝倉書店,2002. *体育・スポーツ指導のための動きの質的分析入門(翻訳),NAP,2007</p>